



# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.105

March 2021

応用地域学会ニュースレター

## CONTENTS

1. 2021-2022年度 副会長選挙案内
2. 第34回研究発表大会報告
3. 第35回研究発表大会のご案内
4. 第11回アジア地域科学セミナーのご案内
5. 2020年度坂下賞
6. 2020年度応用地域学会論文賞
7. 応用地域学研究のJ-Stage移行について
8. 会則の改定について
9. 会員の入退会について
10. 2021年度会費納入のお願い
11. 総会報告
12. 事務局だより

## 1. 2021-2022 年度副会長選挙案内

選挙管理委員 猪原 龍介(亜細亜大学)  
宮川 雅至(山梨大学)

応用地域学会会則第7条により、現会長 大澤義明 教授(筑波大学)の任期が2021年3月31日で満了となり、現副会長 奥村誠 教授(東北大学)が会長に就任されます。

それに伴いまして、次期(2021年4月1日~2023年3月31日)副会長の選出を、会則第7条および応用地域学会選挙内規IIに基づき実施いたします。内規に基づき、副会長候補者選出のために実施された、営委員による投票の結果、次の3名の方が次期副会長候補者に選出されています。

次期 副会長候補者 (五十音順, 敬称略)

曾 道智 (東北大学)    高橋 孝明 (東京大学)    浜口 伸明 (神戸大学)

副会長選挙はこの3名を候補者とし、全会員の投票(オンライン)により1名を選出します。なお、投票の結果1位の者が同票の場合は、選挙内規により、会員歴の長い方を選出します。

今回の選挙よりはがきによる投票ではなく、オンラインでの投票を行います。 郵送済みの案内に記載しております投票サイトにアクセスいただき、投票コード(英大文字 10 桁)を入力の上ご投票願います。スマホ等から QR コードでアクセスいただきますと、自動的に投票コードが入力されますのでご利用ください。

投票コードがお手元に届いていない場合は事務局 (clerk@arsc.org) までお問い合わせください。

投票の締め切りは、2021 年 3 月 25 日 (木) 23:59 です。

なお、会則 7 条では、副会長の次期会長への自動昇任を規定しており、今回選出される副会長の会長としての就任期間は 2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日となります。

## 2. 第 34 回研究発表大会報告

第 34 回大会実行委員長 奥村 誠 (東北大学)

### (1) 大会概要

2020 年 11 月 28 日 (土), 29 日 (日) の 2 日間にわたり, 第 34 回応用地域学会 (ARSC) 研究発表大会をオンラインで開催しました。本大会は 1 年半前から, 中山晶一郎先生 (金沢大学) を実行委員長として, 金沢大学角間キャンパス (金沢市) にて開催の準備を進めていましたが, 新型コロナウイルス感染症の流行拡大を鑑みて, 7 月末の時点でオンラインでの開催に変更したものです。

ARSC では, この国内の研究発表大会のほかに, 中国, 台湾, 韓国の地域科学関係の学術団体との持ち回り開催であるアジア地域科学研究発表会 (ACRS: Asian Conference in Regional Science) を重要な発表会として位置付けています。こちらは, ARSC 会長である大澤義明先生 (筑波大学) のご指導のもと, 2020 年 10 月 9 日 (金) ~11 日 (日) に第 10 回発表会をつくば国際会議場で開催するべく, 堤盛人先生 (筑波大学) を実行委員長として準備がなされていましたが, コロナ禍を鑑みて 10 月 10 日 (土) ~11 日 (日) にオンライン開催に変更となり, 105 名の参加のもと 16 のセッションで 32 本の論文発表が行われました。本大会でも, 堤先生に実行委員をお願いし, 筑波大学に蓄積されたオンライン学会運営経験の活用を図りました。また, 昨年度の佐賀大会の運営経験をお持ちの亀山嘉大先生 (佐賀大学), 小林隆史先生 (立正大学) と, 日本経済学会春季大会プログラム委員長としてオンライン運営の経験をされた内藤徹先生 (同志社大学) を加えて実行委員会を組織し, ARSC 副会長である私が委員長として, 学会事務局との連携などを担当することとなりました。

本研究報告会のプログラム編成は, 河野達仁先生 (東北大学) を委員長として, 石倉智樹先生 (東京都立大学), 岡本千草先生 (立教大学), 田村一軌先生 (アジア成長研究所), 藤原直哉先生 (東北大学), 宮川雅至先生 (山梨大学), 米本清先生 (高崎経済大学) の 7 名からなるプログラム委員会が担当しました。

本大会は例年、非会員を含め 180 名程度の参加者があり、当日参加者から徴収した参加費で会場設営・運営費をまかなってきました。本年度は支出削減を見込んで参加費を無料とする一方、Zoom 上の妨害行為リスクを懸念して会員限定の発表会としました。結果として、事前申込した 170 名の会員と、討論者をお願いした 2 名の非会員の方に参加していただきました。

## (2) 研究発表セッション

本年度は特定セッション、シンクタンクセッションの企画応募はなく、Early Bird セッション、一般セッションにおいて、合計 48 編の研究発表が行われました。本大会では、各論文について 20 分の発表に続き、発表者の希望に沿って依頼した予定討論者との 10 分間の質疑応答、一般聴衆との 10 分間の質疑応答が割り当てられ、十分な時間を使い充実した議論ができるようにしています。

Early Bird セッションは、大学院生による研究報告を集めたセッションで、ベテランの研究者がアドバイスを与えて鼓舞するとともに、Job Market としての役割を持っています。今大会では 8 編の報告が行われました。昨年度の佐賀大会から、Early Bird セッションにおける学生の発表論文を対象とする「最優秀学生論文賞」を創設しました。プログラム委員が当日の発表と質疑応答の状況を聞いて、最終審査を行った結果、本年度は林柯夫(東北大学)さんの“International trade with binary demands and heterogeneous productivity”が選定され、オンライン懇親会の冒頭に河野達仁先生から紹介がありました。

一般セッションでは、応用地域学の中心分野とされてきた「立地」、「土地利用」、「集積」、「交通」、「住宅」、「貿易」、「地域経済」に加え、「環境」、「災害」、「リスク対応」などの課題に関するセッションが設けられてきましたが、今回は「マッチング」、「空間とネットワーク」などのメカニズムや、「生活」、「ウイルス対応」、「規制」、「政策」などの具体的政策対応を議論するセッションが構成されました。各セッションとも、最新の研究成果が発表され、多くの討論者は討論資料を用いて丁寧な質疑を行っていただいたほか、聴衆からも活発な質問やコメントが出され、活発な議論を行うことができました。

さらに、電子会議セッションを時間割終了後最大 30 分間解放し続けることで、個別の質疑や議論を継続できるようにしました。実際、いくつかのセッションでは、ベテラン会員から学生発表者へのアドバイス、実証分析に使えるデータや計算ツールの情報交換、さらには今後の共同研究活動スケジュールの調整まで、様々に活用され、リアルの談話室の機能を補うことができたと感じています。

## (3) 坂下賞受賞講演

坂下賞は、応用地域学会の創設者である故坂下昇先生のご功績を記念し、2004 年度に創設された賞で、地域科学研究の発展に顕著な功績をした、若手(満 40 歳以下)研究者の顕彰を目的とするものです。

今大会では、2019年度の受賞者である高山雄貴先生（金沢大学）から、“Scheduling preferences, traffic congestion, and residential land use”というタイトルで講演いただきました。この講演では、古典的な住宅立地モデル(Alonso, 1964)と始業時刻選択モデル(Henderson, 1981)を数学的構造の同一性に着目して統合する方法と、その結果現象理解と政策的示唆に富んだ知見が得られることをお話いただきました。

#### (4)学会総会とオンライン懇親会

坂下賞受賞講演の終了後、2020年度の学会総会が開催されました。会員動態の報告、2019年度決算および2020年度予算の報告がなされ、その内容が承認されました。関連して、財政状況の改善を次世代の研究者の奨励や育成につなげるため、来年度から学生会員の会費を無料とする会則の改正が提案され、承認されました。

「応用地域学研究」の編集、出版状況の報告、アジア地域科学セミナーの報告に引き続き、坂下賞の受賞者と応用地域学会論文賞の受賞論文に対して、会長からの授与式が行われました。

2020年度坂下賞選考委員長である松島格也先生（京都大学）から、瀬谷創先生（神戸大学）への授与とその理由が報告されました。瀬谷先生は、地域科学の主たる一分野である空間計量経済学において理論・実証両面からの研究成果を28編の国際誌論文、19編の国内誌論文に発表され、空間計量経済モデルの空間重み行列と説明変数の同時選択アルゴリズム、機械学習による固有ベクトルフィルタリング、無条件分位点回帰の拡張などを提案されました。さらに瀬谷・堤（2014）『空間統計学』（朝倉書店）およびYamagata and Seya（2019）Spatial Analysis Using Big Data（Academic Press）は、空間計量経済学と地球統計学の2つの学問分野の相違と長所・短所について解説した、実務者・研究者を導く貴重なテキストとなっています。

2020年度の応用地域学会論文賞は、岩橋培樹先生（琉球大学）と亀山嘉大先生（佐賀大学）の「地域産業政策の成果に関するパネルデータ分析」（応用地域学研究第22号(2018)掲載）に授与されました。この論文は2001年以降、我が国で進められてきた、産業クラスター計画、知的クラスター創成事業、構造改革特区という3つの地域産業政策の製造業の生産性向上効果を検証するために、都道府県パネルデータ分析を行った労作で、学術的、政策的に非常に重要な論文であると評価されました。

総会終了後、オンライン懇親会に移行し、60名余りの方に参加いただきました。今回、20分ごとに参加者をランダムに最大6人のブレイクアウトルームに入れ替えて、思いがけない人との新しい出会いのチャンスを増やす工夫をしてみました。予定時間を超えて、いくつかの部屋で盛り上がりが続いていました。

#### (5)おわりに

参加者の方も、コロナ禍の中で、徐々に慣れてきたとは言え、オンライン学会の運営には不安がありました。松尾和史君などの学生を含め、筑波大学にACRS運営のノウハウが蓄積され、丁寧な接続マニュアル

や集中管理体制のおかげで、円滑に実施することができました。発表を聞いたセッションから瞬時に移動して、別のセッションの討論に参加出来るなど、オンラインならではの利点も感じられました。

とはいえ、地域科学を研究対象とする我々は、現実の地域を訪問しての実感に学ぶところが多いこと、子持ちの世代が懇親会に参加しづらいという問題を考えると、実開催の意義は大きいと言えます。次年度の第35回研究発表大会は、2021年11月下旬に金沢大学での開催に再挑戦することになりました。平穏な状況の中で、活発な討論ができることを祈念しています。

### 3. 第35回研究発表大会のご案内

ARSC 事務局

2021年度のARSC研究発表大会は、金沢大学が開催校となり、大会実行委員長中山晶一郎教授を中心に下記要領にて実施いたします。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

#### 大会概要

日 程： 2021年11月下旬

会 場：金沢大学角間キャンパス（大会実行委員長 中山 晶一郎 教授）

日程が確定致しましたらHP等にてお知らせします。また、新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはオンライン開催となる可能性もございます。

発表申込先、および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS次号（2021年8月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ（予定）で、ご案内していきます。

### 4. 2021 Asian Conference in Regional Science

#### （第11回アジア地域科学セミナー）のご案内

ARSC 事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）、台湾地域学会（CRSA-T）、韓国地域学会（KRSA）が共催して開催しております。

第11回は台湾地域学会（CRSA-T）の担当により、2021年10月8日(金)～10日(日)の日程で、逢甲大学で開催されます。台湾地域学会（CRSA-T）から詳しい情報が届き次第、ARSCホームページ等でお知らせいたします。

## 第 11 回アジア地域科学セミナー概要

- \* 日程：2021年10月8日(金)～10日(日)
- \* 会場：Feng Chia University, Taichung, Taiwan
- \* 開催担当：台湾地域学会 (CRSA-T)

## 5. 2020 年度坂下賞

2020 年度坂下賞選考委員会 委員長 松島 格也 (京都大学)

2020 年度の坂下賞は、神戸大学大学院工学研究科 准教授 瀬谷 創氏に決定しました。坂下賞の表彰は、11 月 28 日応用地域学会総会の中で行われました。瀬谷氏には表彰盾と金一封が授与されました。

### 2020 年度 坂下賞 受賞者

瀬谷 創 (神戸大学大学院工学研究科 准教授)

### 授賞理由

瀬谷創氏は、地域科学の主たる一分野である空間計量経済学において理論・実証両面から研究を行い、Regional Science and Urban Economics や Papers in Regional Science, Transportation Research Part A: Policy and Practice といった国際誌にこれまで 28 編 (内 IF 付 22 本) , 国内誌に 19 編の論文を刊行している。2013 年の論文では、空間計量経済モデルにおいて、最適な空間重み行列と説明変数を AIC 最小化の観点から同時選択するアルゴリズムを開発した。提案手法は多重共線性が存在する下でも、安定的に動作する実用性を備えている。2015 年の論文では固有ベクトルフィルタリングと呼ばれる空間計量経済モデルにおいて、固有ベクトルの選択に機械学習を応用した新たな方法を提示した。同手法は、高速かつ頑健なモデル特定化が可能であり、手法の汎用性を大いに高めた。2020 年の論文では、無条件分位点回帰の空間計量経済モデルへの拡張を行った。同手法は異質性を持つデータを対象とした幅広い実証分析での活用が期待される。

さらに瀬谷氏は、空間データのモデリングが地域科学から派生した空間計量経済学と、鉱山学から派生した地球統計学と呼ばれる分野にまたがる点に問題意識を持ち、瀬谷・堤 (2014) 『空間統計学』 (朝倉書店) および Yamagata and Seya (2019) Spatial Analysis Using Big Data (Academic Press) の 2 書を刊行した。これらテキストは 2 つの学問分野を俯瞰し、それらの相違と長所・短所について解説しており、類書はほぼ見られない。その内容は空間計量経済学に本格的に取り組む実務者・研究者を導く貴重なテキストであって、学問分野への貢献が大きい。

瀬谷氏は、第1回の応用地域学会論文賞（2013）を受賞し、ARSC大会において2009年以降、1年を除いて毎年口頭発表を行っている。さらに、『応用地域学研究』にも4本の論文と1本の書評を発表、大会実行委員（第30回）、プログラム委員（第33回）、運営委員（令和2年度）を担当するなど、当学会への貢献は非常に大きい。よって2020年度坂下賞を瀬谷創氏に授与することとする。

2020年度 坂下賞選考委員会 委員長 松島 格也（京都大学）

委員 森 知也（京都大学）、佐藤 泰裕（東京大学）

大澤 義明（ARSC 会長）、奥村 誠（ARSC 副会長）

## 6. 2020年度応用地域学会論文賞

2020年度論文賞選考委員会 委員長代理 奥村 誠（東北大学）

選考委員会では、応用地域学研究ならびにRURDSに掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2020年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとなりました。応用地域学会論文賞の表彰は、11月28日応用地域学会総会の中で行われました。著者の岩橋 培樹氏（琉球大学国際地域創造学部教授）、亀山 嘉大氏（佐賀大学経済学部教授）には表彰楯が授与されました。

### 2020年度 応用地域学会論文賞 受賞論文

論文名：地域産業政策の成果に関するパネルデータ分析

掲載誌：応用地域学研究 第22号(2018) pp. 25-35

著者：岩橋培樹（琉球大学）

亀山嘉大（佐賀大学）

### 授賞理由

本論文は、2001年以降、我が国の製造業の国際的な競争力の向上を目的に進められてきた、産業クラスター計画、知的クラスター創成事業、構造改革特区という3つの地域産業政策の成果を検証するために、1991～2014年の都道府県パネルデータの分析を行った労作である。誤差項の分散不均一性を考慮した産業中分類レベルの綿密な分析により、政策のポジティブな効果が発現していないことを明らかにした。さらに、地場の中小企業の可能性を理解せずに、すでに地場に存在する有力企業を想定した申請が行われたり、過去の実績を重視する審査が行われた結果として、大企業が支配的な地域で政策が実施されている実態を確認し、それが成果に結びつかなかった原因であることを指摘している。このように本論文の結果は、地域産業政策の有効性に疑問を投げかける重要な政策的含意を持っており、学術的に有用なだけでなく、政策的にも非常に重要な論文である。

よって、本論文は応用地域学会論文賞を授与するにふさわしいと判断した。

## 7. 応用地域学研究の J-Stage 移行について

### ARSC 事務局

『応用地域学研究』は 22 号をもちまして冊子体での刊行を終了し、23 号より第 2019 巻 23 号として、J-Stage で公開されております。

以下のリンクよりご覧ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arsc/-char/ja>

J-Stage で公開するのは論文部分のみとし、非会員も閲覧可能なオープンアクセスとなります。それ以外の記事については今後学会HPに掲載予定です。

なお、11号から22号までの論文は学会HPにて閲覧することが出来ます。

## 8. 会則の改定について

### ARSC 事務局

2020 年度応用地域学会総会（2020 年 11 月 28 日）において、『応用地域学研究』の J-Stage 移行と、財政状況の改善を次世代の研究者の奨励や育成につなげる目的から、応用地域学会会則付則第 2 条を以下のように改定することが承認されました。この改定は、2021 年 4 月 1 日から発行します。

（改定前）

#### 付則 第 2 条

- 個人会員の年会費額を以下のように定める。  
なお名誉会員については会費の納入を免除する。  
一般会員：10,000 円，学生会員：5,000 円，  
海外会員：「応用地域学研究」を購読する場合は  
80 米ドル，購読しない場合は 60 米ドル。

（改定後）

#### 付則 第 2 条

- 個人会員の年会費額を以下のように定める。  
なお名誉会員については会費の納入を免除する。  
一般会員：10,000 円，学生会員：~~5,000~~ 円，  
海外会員：~~「応用地域学研究」を購読する場合は~~  
~~80 米ドル，購読しない場合は 60 米ドル。~~



## 9. 会員の入退会について

ARSC 事務局

2020年度応用地域学会総会（2020年11月28日）において、2019年度総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）

入会：

（一般8名）高橋 雅士（有限責任監査法人トーマツ），村上 悠馬（一般社団法人計量計画研究所），山何 芳（独立行政法人労働政策研究・研修機構），中園 大介（株式会社建設技術研究所），笹原 彰（慶應義塾大学），山崎 慎吾（札幌学院大学），奥山 尚子（大阪学院大学），牛木 賢司（株式会社建設技術研究所）

（学生17名）于 丽茜（北海商科大学），深澤 武志（東京大学），柴辻 優樹（慶應義塾大学），増原 広成（公益財団法人NIRA 総合研究開発機構），高橋 海里（青山学院大学），鈴木 笙太（名古屋大学），苗 璐（金沢大学），高瀬 陸（筑波大学），松尾 和史（筑波大学），林 柯夫（東北大学），徳田 伊織（筑波大学），鮑 星宇（筑波大学），下津 大輔（筑波大学），丁 康哲（東北大学），馬 達（広島大学），宮嶋 正子（広島大学），坪井 和史（東北大学）

復会（再入会）（2名）（一般1名，海外1名）清水 千弘（日本大学），徐 航天（Hunan University）

同時に以下の方々の退会が承認されました（順不同・敬称略）

退会：

（一般16名）石川 利治（中央大学），太田 博史（神戸大学），朝田 康禎（摂南大学），樋口 洋一郎（東京工業大学），檜崎 正訓（岡山県），近藤 広紀（上智大学），伊藤 史子（首都大学東京），奥村 隆平（金城学院大学），牧 浩太郎（㈱三菱総合研究所），野原 克仁（北星学園大学），榊原 仁（愛知県振興部航空対策課），黒岩 郁雄（日本貿易振興機構アジア経済研究所），佐原 あきほ（株式会社価値総合研究所），加藤 隼人（慶應義塾大学），宇野 公子（学習院女子大学），武蔵 勝宏（同志社大学）

（学生4名）山田 雄一（筑波大学），林 遼平（広島大学），Hossain Sharif Mosharraf（政策研究大学院大学），鐘 岱（筑波大学）

（物故会員1名）佐藤 仁志（麗澤大学）

この結果、2020年11月27日現在の会員数は、下表のとおりとなりました。

一般会員 419 人，学生会員 63 人，海外会員 5 人，賛助会員 5 法人（7 口）

		2019/11/22	入会	退会	転格	復会	2020/11/27
個人会員	一般会員	416	8	-17	11	1	419
	学生会員	61	17	-4	-11	0	63
	海外会員	4	0	0	0	1	5
	合計	481	25	-21	-	2	487
賛助会員		5 (7口)	0	0	-	-	5 (7口)

## 10. 2021 年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベース（2021年3月14日現在）に基づいて発行された請求書をお送りしています。

ご請求額を2021年5月31日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。

送られた請求額について疑義のある場合には、学会事務局まで、メール(clerk@arsc.org)にてお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。

皆様それぞれの会費納入状況は、ARSC ホームページ(<http://www.arsc.org/>)の会員ページ(会員ログイン)で、確認できます。(会員ページにログインできない方は、上記学会事務局にお問い合わせください。)

### (1) ARSC 会費

2021 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 0 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。

また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)の年会費は\$60 です。なお、海外会員でも国内会員と同等とする場合は、10,000 円となります。

\* 海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、事務局までご相談ください。

### (2) RSAI(国際地域学会)会費

2021 年の RSAI 会費は、一般会員 1,300 円、学生会員 1,300 円 です。

#### <RSAI 会費とサービス>

RSAI の会員に対するサービスは、以下のようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI 会員である方は、ARSC 会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015 年から、RSAI の会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止

され、オンラインサービスのみとなりました。

(2015年から、従来のRSAIのプリント郵送サービスを受ける会員区分Aは無くなり、オンラインサービスを受ける会員区分Bのみとなり、従来の会員区分Aの方は、会員区分Bに変更しております。)

#### <RSAIのサービス内容 >

- ・Papers in Regional Science(PiRS), ニュースレター等のオンラインサービス
- ・RSAI ホームページへのアクセス
- ・RSAI の会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス
- ・Journal of Regional Science などの Wiley-Blackwell 社の雑誌の購読料割引と関連出版物の詳細情報の提供

#### <RSAI 会員の継続・入退会について >

ARSC を通じての RSAI への入退会は、年 1 回、12 月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年 11 月頃に、入退会・継続、登録情報変更のご案内をいたします。

従来からの RSAI 会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

なお、日本地域学会の会員は自動的に RSAI に登録されていますので、本会との二重登録にご注意ください。

## 11. 総会報告

ARSC 事務局

2020 年度の総会は、大会中の 11 月 28 日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

### (1) 会則の改正について（前掲）

『応用地域学研究』の J-Stage 移行と、財政状況の改善を次世代の研究者の奨励や育成につなげる目的から、応用地域学会会則付則第 2 条を改定することが承認された。

### (2) 活動報告ならびに活動方針

大澤義明会長より、学会の活動報告と今後の活動方針が発表された。

### (3) 会員動態

石倉智樹総務担当運営委員より、2019 年度総会以降（2019 年 11 月 24 日～2020 年 11 月 27 日）の入退会希望者（前掲）が報告され、承認された。なお退会者については、会費の長期滞納による退会者が含まれる。また、ここで大澤会長より、本会を通じて RSAI（国際地域学会）に入会している会員は、3 年以上会

費を滞納した場合に、RSAI から強制的に除名し送金を停止することとする旨が周知された。

(4) 2019 年度決算及び 2021 年度等予算（末尾の表を参照）

亀山嘉大会計担当運営委員より、2019 年度決算報告および 2021 年度予算案が提示され、原案どおり承認された。

(5) 『応用地域学研究』の編集・出版状況及び今後の方針

堤盛人編集委員長より、23 号発刊の報告および 24 号の進捗状況が報告された。また、22 号をもって冊子体での刊行を終了し、23 号より第 2019 巻 23 号として、J-Stage で公開されていることが報告された。

(6) 2020 年度坂下賞（前掲）

2020 年度坂下賞は、神戸大学大学院工学研究科 准教授 瀬谷 創氏に授与された。

(7) 2020 年度応用地域学会論文賞（前掲）

2019 年度応用地域学会論文賞は、岩橋 培樹氏（琉球大学国際地域創造学部教授）、亀山 嘉大氏（佐賀大学経済学部教授）の論文、地域産業政策の成果に関するパネルデータ分析、応用地域学研究 第 22 号 (2018) pp. 25-35 に授与された。

(8) 2021 年度研究発表大会の開催について（前掲）

(9) アジア地域科学セミナーについて

①第 10 回セミナー報告

堤盛人実行委員長より、第 10 回は 2020 Asian Conference in Regional Science として、2020 年 10 月 10 日（土）～11 日（日）、応用地域学会の主催で筑波大学を幹事校としてオンラインにて開催され、105 名の参加登録があり、16 のセッションで 32 本の論文発表がなされたことが報告された。

②第 11 回セミナーについて

第 11 回セミナーは 2021 年台湾にて開催予定であることが報告された。

(10) その他

奥村副会長より、2021 年 2 月～3 月に ARSC 会則第 7 条および選挙内規にしたがって、2021 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの副会長選挙を実施することが周知された。

## 12. 事務局だより



### 第 34 回 ARSC 研究発表大会

第34回 ARSC 研究発表大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで開催されました。大会委員長の奥村誠先生（東北大学、本会副会長）をはじめとし、大会運営委員の亀山嘉大先生、小林隆史先生、堤盛人先生、内藤徹先生のご尽力により、大変素晴らしい大会となりました。また、プログラム委員長を務められた河野達仁先生（東北大学）とプログラム委員の先生方、オンライン開催運営にご協力いただいた筑波大学の皆様、また様々な側面でご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。

## 事務局からのお願い

◆会員登録情報の変更をお願いいたします。新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ARSCホームページにある「会員ページ」<<https://service.kktes.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログインし、変更登録をお願い申し上げます。ログインID、パスワードをお忘れの方は、事務局<[clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)>にお問い合わせください。

**来年の運営委員選挙より、選挙案内をメールでお送りいたします。**今一度ご登録のメールアドレスをご確認くださいますようお願い申し上げます。。

◆地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、web上で行えます。ARSCのホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「新規入会」のページにアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

◆事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

## 編集 後記

去年は、アジア地域科学セミナーに続き、研究発表大会もオンラインでの開催となりましたが、会員の皆様のご尽力により盛会となりました。ワクチンの接種も始まり、コロナ禍の状況も変わりつつあります。11月の研究発表大会では、会員の皆様とお会いできるのを今から楽しみにしております。(T.N)

## ARSC NEWS No.105 (2021年3月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 大澤 義明

ARSC NEWS 担当: 奥村 誠 (副会長) / 内藤 徹 (渉外担当幹事) / 光井 明日香 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126 NITTO ビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org) / 学会 HP: <http://www.arsc.org/jp/>

2019 年度決算と 2021 年度予算

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日) 決算

収入の部	2018決算		2019予算		2019決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越益	3,712,353		2,752,178		2,752,178	
2.有人会費収入	9,885,800		4,540,700		4,047,900	
3.RSAI会費	173,500		214,500		181,600	
4.賛助会費収入	50,000		400,000		450,000	
5.補助金等	0		0		0	
6.利息収入	11		0		14	
7.新誌販売 (Back Number)	14,250		90,000		14,490	
8.その他	3,000		0		20,212	
収入合計	7,848,914	0	7,937,378		7,485,794	
(繰越金を除く収入合計)	4,136,561	0	5,185,200		4,713,618	

支出の部	2018決算		2019予算		2019決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行・購読費	3,127,885		2,554,680		2,475,683	
(購読費)	3,110,818		2,354,680		2,460,482	
(編集経費等)	17,047		200,000		15,211	
2.年報刊行費	541,080		850,000		573,593	
3.大会開催補助	-81,811		200,000		273,718	
(年次大会)	-81,811		200,000		-28,282	
(アジア地球科学セミナー)	0		0		300,000	
4.RSAIへの送金	198,809		214,500		190,233	
5.被下算	122,140		122,000		122,550	
6.論文費	79,116		20,000		20,680	
7.ニューズレター等印刷費	0		5,000		0	
8.一般事務費	316,955		330,000		302,926	
(郵送料)	99,179		120,000		100,207	
(消耗品等)	9,364		20,000		10,822	
(会誌費・交通費等)	204,448		175,000		187,289	
(銀行手数料)	3,944		15,000		4,608	
9.事務局費	852,582		885,000		884,218	
(事務管理・事務員費)	550,000		600,000		600,000	
(装置管理システム費)	182,582		185,000		184,218	
(アルバイト費)	120,000		100,000		100,000	
10.不備費	0		4,023		0	
支出合計	5,096,735	0	5,185,200	0.00	4,843,811	
繰越益	2,752,178	0	2,752,178	0.00	2,622,183	
ドル貨円換算(手数料を除く)			0			
繰越金合計	2,752,178	0	2,752,178	0.00	2,622,183	
	-860,175				-129,995	

注1:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

注2:2016年度決算より、海外会費ドル貨会費は、円貨に換算(換金手数料差引)し、個人会費に含める。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2020年 11月 16日

監査委員

水本 清

2020年 11月 24日

監査委員

田村 一軌

応用地域学会2021年度予算書

収入の部	2019FY決算	2020FY予算	2021FY度予算
1.繰越金	2,752,178	2,622,183	2,622,183
2.個人会費収入	4,047,300	4,607,740	4,609,000
3.RSAI会費	181,600	208,000	208,000
4.賛助会費収入	450,000	400,000	400,000
5.補助金など	0	0	0
6.利子収入	14	0	0
7.雑誌販売(Back Number)	14,490	30,000	30,000
8.その他	20,212	0	0
収入合計	7,465,794	7,867,923	7,869,183
(繰越金を除く収入合計)	4,713,616	5,245,740	5,247,000

支出の部	2019FY決算	2020FY予算	2021FY度予算
1.RURDS購読費	2,475,693	0	0
(購読費)	2,460,482	0	0
(諸経費等)	15,211	0	0
2.年報刊行費	573,593	850,000	172,000
3.大会開催補助	273,718	920,000	200,000
(年次大会)	-26,282	200,000	200,000
(地域科学セミナー)	300,000	720,000	0
4.RSAIへの送金	190,233	208,000	208,000
5.坂下賞	122,550	122,000	122,000
6.論文賞	20,680	21,000	21,000
7.ニューズレター等印刷費	0	5,000	5,000
8.一般事務費	302,926	330,000	330,000
(郵送費)	100,207	120,000	120,000
(消耗品等)	10,822	20,000	20,000
(会議費・交通費等)	187,289	175,000	175,000
(銀行手数料)	4,608	15,000	15,000
9.事務局費	884,218	835,000	835,000
(事務管理費)	600,000	600,000	600,000
(会員管理システム費)	184,218	185,000	185,000
(アルバイト費)	100,000	50,000	50,000
10.予備費		1,954,740	3,354,000
支出合計	4,843,611	5,245,740	5,247,000
繰越金	2,622,183	2,622,183	2,622,183
収支差	-129,995	0	0